

20	長野県箕輪進修高等学校	定時制	普通	26～29
----	-------------	-----	----	-------

平成29年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（成果報告書）（要約）

1 研究開発課題

高等学校における特別支援教育の充実を図るための、個を伸ばす指導の充実と自立活動を取り入れた教育課程の編成に関する研究開発

2 研究の概要

特別な支援を必要とする生徒が多く在籍している定時制高等学校において、自立と社会参加に向けた指導体制の充実を図るために、自立活動に相当する指導を行う領域「自立活動」（科目名「グロウアップ」）を設定する。

また、現行の教育課程における「わかる授業」、ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）、ライフ・スキル・トレーニング（LST）、就業体験の実施による個々の能力・才能を伸ばす指導と併せ、社会生活における基礎知識の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的な生活習慣の形成を図る。

さらに、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成、実施、評価を通して、保護者、中学校、地域との連携を図り、特別な支援を必要とする生徒の職業的自立を目指した指導の在り方について研究する。

第4年次（平成29年度）は、新たな3年生2名、2年生3名を対象とした。一方、高等学校における自立活動の在り方（教育課程への位置付け、専門性の担保、指導内容等）については今後とも課題としてさらに研究を深める必要がある。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

① 多部制・単位制の定時制高等学校には、不登校経験者や発達障がいのある生徒など、基礎学力、コミュニケーション能力、基本的な生活習慣の形成において課題のある生徒が多く在籍している。また、複雑な家庭環境を背景として、学校生活や卒業後の社会的自立に不安を感じている生徒も多い。

対象生徒は、基本的な生活において、ほとんどの分野の成長が年齢相当に達していないため、通常の学習指導から就労に結びつけることが困難であり、将来の社会的自立に必要な力を育成するために自立活動に相当する指導を必要としている。

② このような現状において、将来の自立と社会参加、特に職業的自立に役立つ知識と社会性を学校教育の中で身につけていく指導体制を整備することが研究の目的である。そのために、教育課程の中に自立活動に相当する指導を取り入れ、対象生徒を個別に指導し、学校生活への適応と卒業後の職業的自立を目指す。

対象生徒	診断名	検査結果
A	広汎性発達障がい	(WISC-IV) FSIQ=84 VCI=88 PRI=82 WMI=88 PSI=86
B	LDの疑い	(WISC-IV) FSIQ=79 VCI=80 PRI=89 WMI=79 PSI=83
C	ADHD トゥレット症候群	(検査本人拒否)
D	軽度発達障がい	(WISC-IV) FSIQ=83 VCI=91 PRI=91 WMI=91 PSI=70
E	ADHD	(WISC-IV) FSIQ=83 VCI=93 PRI=72 WMI=72 PSI=76

(2) 研究仮説

- ① 自立活動に相当する領域を「グロウアップ」（科目名）として教育課程に位置づけ、自立活動に相当する指導（個別のSST、「健康・運動・栄養」・「経済」・「コミュニケーション」を中心とした個別のライフ・スキル・トレーニング（LST）、障がい者就労に係わるインターンシップ等）と障がいに応じた各教科・科目の補充指導を行う。
- また、他の生徒と共通の教科科目においても、一斉授業の改善による「わかる授業」づくり、学年のすべての生徒に向けたSSTや就業体験等を実施し、個々の能力・才能を伸ばす指導を行う。
- ② これらの指導を通して、基礎学力、コミュニケーション能力、基本的生活習慣を身につけることによって、特別な支援を必要とする生徒の学校生活への適応と職業的自立がより促進されると考える。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
①自立活動に相当する領域「グロウアップ」を設定する。	①個別のSST 自立活動の「6コミュニケーション」の内容を踏まえ、スキルの定着を目標としたトレーニングを実施する。	①I部2～3年次、II部2～4年次は、2～7単位（70～245単位時間）で実施する。
②普通科I部は2～3年次において、普通科II部は2～4年次において、選択群の中に「グロウアップ」を置き、対象生徒に対して選択科目の授業時間帯に通級による指導を行う。	②個別のLST ア「健康・運動・栄養」 イ「経済」 ウ「コミュニケーション」 自立活動の「1健康の保持」、「4環境の把握」、「5身体の動き」、「6コミュニケーション」の内容を踏まえ、生活スキルの定着	②卒業に必要な単位のうち必修科目を除く選択教科・科目の21単位に替えることができる。
③「グロウアップ」の指導は、校内に設置した通級指		

<p>導教室（リソースルーム）において、自立活動等担当教員が実施する。</p>	<p>を目標としたトレーニングを実施する。</p> <p>③障がい者就労に係わるインターンシップ・インターンシップの事前指導を実施する。</p>	
---	--	--

（４）個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ① 「わかる授業」づくり
 - ・学習目標、学習内容を明確にし、授業の焦点化を図る。
 - ・色チョークで要点やポイントを明確にする。
 - ・視力の低い生徒などを配慮し、蛍光色のチョークを使用する。
 - ・ICTを活用し、授業の視覚化を図る。
 - ・ユニバーサルデザインを基にした教材作りを行う（必要に応じてルビをふる等）。
 - ・プリントを多く活用した授業により、要点をおさえた学習を図る。
 - ・実技教科においては学習の手順を明確にして行なう。
- ② 「学びの共同体」へのアプローチ
 - ・グループ形態による個の支え
 - ・能動的な学びを手伝う方法としてのアプローチ
 - ・麻布教育研究所永島孝嗣先生からのアドバイスと授業研究研修
- ③ SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）
 - ・総合的な学習の時間において、「折り合いをつけるスキル」、「上手に断るためのスキル」、「怒りのコントロール」等、日常生活を円滑に行なうためのトレーニングを実施する。
 - ・就業体験や企業訪問に向けた、あいさつの仕方、電話応対、質問の仕方等の実践的なトレーニングを実施する。
 - ・学校生活の中でSSTの汎化を図る。
- ④ 対人関係ゲーム
 - ・総合的な学習の時間において、対人関係ゲーム（他者と触れ合うゲーム、他者と協力・連携するゲーム、他者と折り合いをつけるゲーム等）を行い、他者に心を配ることができるように指導する。
- ⑤ インターンシップ（就業体験）
 - ・本校では、2学年全員がインターンシップを行う。発達障がい、身体障がい、知的障がいなどがあり、将来は福祉的な就労を希望する場合は特例子会社や障がい者雇用実績のある企業と相談しインターンシップを行う。

（５）研究成果の評価方法

- ① 基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的な生活習慣の形成、それぞれの課題について、標準化された検査・テストによる客観的評価を実施し、研究成果を検証する。
- ② 対象生徒による、自立活動の有効性や満足度の評価、リソースルームの評価を行

う。

- ③ 「自立のためのチェックリスト」（特定非営利活動法人フトゥーロ・LD 発達相談セ
ンターかながわ）に従って作成したチェックリストを使用し、評価をする。
- ④ 特別な支援を必要とする生徒に対する個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、計画を実施することで得られた成果等を評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

- ① 自立活動に相当する指導と障がいに応じた各教科・科目の補充指導を行う領域（「グロウアップ」（年間2～7単位））を設定する。
- ② 「グロウアップ」において、個別のSSTを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ③ 「グロウアップ」において、「健康、運動、栄養」・「経済」・「コミュニケーション」を中心とした個別のLST、及び、障がい者就労に係るインターンシップを実施し、基本的な生活習慣の形成と職業的自立を図る。
- ④ 「グロウアップ」において、特に必要があるときには、障がいの状態に応じて各教科・科目の補充指導を行う。
- ⑤ 就職活動に向け、就労アセスメントを実施する。
- ⑥ 「グロウアップ」の評価については、基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的な生活習慣の形成、それぞれの課題について、標準化された検査・テスト・チェックリストによる客観的評価を実施する。

(2) 全課程の修了認定の要件

自立活動について2・3・4年次70～245単位時間のうち、各年次とも4分の3以上の出席で単位を認定する。

卒業に必要な74単位のうち選択教科・科目の21単位に自立活動で修得した単位を替えることができる。

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<ul style="list-style-type: none">・校内研究委員会の設置・運営指導委員会の設置・個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成、実施、評価・「グロウアップ」の設定と一部試行的実施（特別の教育課程）・高等学校における自立活動の指導内容・方法の検討・リソースルームでの指導と通常学級での指導との連携についての検討・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行教育課程）・生徒、保護者、地域への理解啓発活動

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の1年次のまとめ
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の修正、実施、評価 ・「グロウアップ」の全体試行的実施（特別の教育課程） ・「グロウアップ」の在り方の検討 ・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行の教育課程） ・学年実施の就業体験の事前・事後指導 ・研究成果の2年次のまとめ
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の修正、実施、評価 ・「グロウアップ」の実施 ・「グロウアップ」設定の成果と課題についての検討 ・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行の教育課程） ・支援対象生徒の就労等における追跡調査 ・就労アセスメントの実施 ・障がい者就労に係る「インターンシップ」の実施 ・就業体験の成果と課題についての検討 ・生徒、保護者、地域への理解啓発 ・研究成果のまとめ
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の修正、実施、評価 ・「グロウアップ」の実施 ・「グロウアップ」設定の成果と課題についての検討 ・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行の教育課程） ・支援対象生徒の就労等における追跡調査 ・就労アセスメントの実施 ・障がい者就労に係る「インターンシップ」の実施 ・就業体験の成果と課題についての検討 ・生徒、保護者、地域への理解啓発 ・教職員の業務整理、校内のシステムの構築・運営

(4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制整備の有効性についての評価 ・現行教育課程における取組の有効性についての評価 ・リソースルームでの個別指導の有効性についての評価
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・リソースルームにおける支援体制の有効性の評価 ・高等学校における自立活動の有効性の評価 ・高等学校の教育課程における自立活動の時間の設定の評価 ・関係機関と連携した支援の有効性についての評価
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・現行教育課程における取組の有効性についての評価 ・リソースルームにおける支援体制の有効性の評価 ・高等学校における自立活動の有効性の評価 ・高等学校の教育課程における自立活動の時間の設定の評価 ・関係機関と連携した支援の有効性についての評価

	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象生徒の変容についての評価 ・研究校としての総合的なまとめと運営指導委員会での総合的な評価
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・現行教育課程における取組の有効性についての評価 ・リソースルームにおける支援体制の有効性の評価 ・高等学校における自立活動の有効性の評価 ・高等学校の教育課程における自立活動の時間の設定の評価 ・関係機関と連携した支援の有効性についての評価 ・支援対象生徒の変容についての評価 ・研究校としての総合的なまとめと運営指導委員会での総合的な評価 ・校内システム構築に対する評価

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

①対象生徒への効果

対象生徒Aは同年代とのコミュニケーションや人とペースを合わせることが難しく、自信が持てない生徒であった。自立活動のプログラムに積極的に参加することをとおして、主体的に活動し、成功体験を積み重ねることで他者とのコミュニケーションに手ごたえを持つことができた。4月当初は農業系の上級学校への進学を希望していたが、自立活動の農業体験などをおして地元の製造業へ一般就労した。(自立活動の時間に対する対象生徒の自己満足度 80点/100点中)

対象生徒Bは、書字・識字に困難さがあり、自立活動開始前は活動に見通しが持てず、不安を感じている様子であった。自立活動の時間にパソコンを用いて自分の考え方を表出する活動に前向きに取組み、他の対象生徒に自分の気持ちを直接伝える経験を重ねることでコミュニケーションスキルを高め、自分に自信を深めることができた。入学当初から希望してきた運送会社に一般就労した。(同 100点/100点中)

対象生徒Cは自立活動を開始する前は、対象生徒Aと同様な傾向を示していたが、自立活動で他の対象生徒との関わりをおして、コミュニケーションへの苦手意識が克服されつつあり、教師の支援がなくとも、自発的に自分の気持ちを周りの人に伝えられるようになった。また自立活動開始前に見られた自己に対して否定的な発言をしたりすることも少なくなっている。(同 80点/100点中)

対象生徒Dは コミュニケーションにおいて相手を選んだり、一方的となったりすることがあったが、自立活動の取り組みをおして、コミュニケーションスキルを高めることが、将来、実社会で生きていくうえで役に立つという意識をもつことができた。(同 65点/100点中)

今年度の生徒の姿から、障がいを持っていても、学校生活に意欲を持ち、決められたルールの中で高校生として生活することができる生徒にとっては、自立活動は大変有効であると考えられる。

【生徒の自己評価】

	対象生徒 A	対象生徒 B	対象生徒 C	対象生徒 D
「グロウアップ」の授業の満足度は？	80点／100点中 (コメント未記入)	100点／100点中 しっかりとパソコンを打つこともできるようになったし、コミュニケーションもしっかりとれるようになった。	80点／100点中 この1年を通してグロウアップの時間で自分の苦手なことを伸ばせることもありましたが、もう少し自分に適した方法で学習できるようであればよかったかなあと思ったからです。でもとても楽しんでやってこられたのでよかったです。	65点／100点中 学校に来られなかった時が多かったから

②教員への効果

教員へのアンケートの結果、通級指導に対して理解している教員、身近な生徒の中に通級指導の必要性のある生徒がいると感じている教員、ユニバーサルデザインや合理的配慮といった特別支援教育の理解を示している教員は70%以上であった。また、授業改善の必要性を感じている職員も概ね60%であった。しかし、理解はあっても「通級担当をやりたい」と答えた教員は16%と大変低く、多くの教員にとって通級指導、自立活動を行うことがまだまだ特別なことのように感じていることがうかがわれる。今後はすべての教員が「自立活動」の指導に当たれるよう、「通級指導」や「自立活動」に対する理解、関心を深めていくことが必要である。

③保護者への効果

本研究の周知は、すべての生徒の保護者に対して行っているわけではないが、PTA会報などには紹介してきている。様々な教育的ニーズのある生徒が在籍しており、ともに学校生活を送っていることは理解されている。また、WISCなどの諸検査、療育手帳や障害者精神保健福祉手帳の取得に対して前向きな保護者が多く、手帳取得に関するトラブル等は生じていない。

研究対象の生徒の保護者からの協力は大きく、学校行事への参加もあった。また、保護者懇談会に特別支援教育コーディネーターの同席を認めてもらい、この研究にとっては大変心強い。生徒や学校に対する過度な要求もなく、本校の教育に快く協力していただいている。

④他の生徒への効果

教育的ニーズのある生徒が多数在籍しているため、生徒個々の特徴の理解がされている場合がほとんどであり、互いの繊細な気持ちを理解し合った関係が築けている。

研究対象生徒が「自立活動」を受講していることに対して言及するようなこともなく、周りの生徒に支えられながら学校生活を送ることができている。

⑤その他（地域の理解等）への効果

中学校の特別支援学級、地域の特別支援学校からは本校の研究に対する期待が大きい。また、県内の高等学校からも注目されている。

（２）実施上の問題点と今後の課題

対象となる生徒の選出について現段階では教員側からのピックアップであるが、今後、高校生としては自己の障がいに対する理解という観点からも自ら自立活動の受講を申し込めるようなシステムの整備を検討したい。また、地域、関係者への周知についても平成30年度に向けて整備していかなければならないが、障がいを持つ生徒が他者から特別視されたり、地域から学校に対して特別視されたりする部分を生徒のためになくしたいと考えており、誤解なく周知されるための方法に困難を感じている。

自立活動を取り入れることで教員や職員に増加した仕事は何かを整備し、どのくらいの加配や時間が必要かを知ることは他校で今後、通級による指導を取り入れる際に参考になると考えられる。